

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28,29年度:計画作成主体:JAあまくさ果樹産地協議会)(熊本県)

取組の概要

対象品目 : 不知火類(無加温・露地栽培)
産地面積 : 134.79ha
主な取組主体 : JAあまくさ果樹部会
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
基準(H27年度) 502,189円/10a
目標(R1年度) 562,517円/10a
導入施設等 : 生産支援事業(生産資材の導入等)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

当産地は、県内有数の中晩柑産地であるが、近年、急速に担い手の減少と高齢化が進行している。また、近年の気候変動により生産が不安定化している。将来にわたり、柑橘産地を維持していくため、基盤整備、作業性の向上、担い手への園地集積を推進するとともに、施設整備や、生産技術の確立によるデコポンの合格率向上と、産地としての市場評価をさらに高めるため選果体制の強化を図り、安定した市場への供給を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ① 不知火類栽培施設整備による気象に左右されない高品質安定生産の推進
- ② 担い手への園地集積へ向けた情報提供、基盤整備の推進
- ③ 安定した選果体制確立のための選果機更新
- ④ 選果、栽培方法統一のための講習会の実施

産地体制

地域の関係者(県天草広域本部、天草市、あまくさ農業協同組合等)が一体となり、事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 優良品種への転換の推進、品質基準の達成に向けた栽培方法の普及徹底。

〈市単独事業〉

- 「園芸施設整備事業」と連携して、園内作業道等の基盤整備による作業の効率化と園地の集積による規模拡大を推進。

取組成果

- パイプハウス・被覆資材等の導入による施設整備による、品質の向上及び生産量の増加。
- 販売額の増加による、生産者の所得向上、不知火類の産地強化を実現。



販売額が32%増加
(達成率 272.5%)

